

【ポスター発表】

福祉系大学卒業生の「福祉マインド」の構造

—卒業生対象の量的調査から—

○ 関西福祉科学大学 柿木 志津江 (4238)

橋本 有理子 (関西福祉科学大学・4381)、吉田 初恵 (関西福祉科学大学・9596)

小口 将典 (関西福祉科学大学・5253)、津田 耕一 (関西福祉科学大学・2231)

キーワード：福祉マインド、社会福祉学、因子分析

1. 研究目的

日本学術会議 社会学委員会 社会福祉学分野の参照基準検討分科会（以下、日本学術会議とする）（2015）によると、福祉マインドとは、「個人と社会の幸福を追求し、それらが相互に関連していることを理解し、個人の問題解決と社会の連帯をどのように実現するかを俯瞰的に捉え、そのことを説明できる力」、「人間の尊厳などの価値を踏まえて自らが社会的役割を履行するために必要な素養」と説明されている。しかし、「福祉マインド」あるいは「福祉のこころ」に関する先行研究をみていくと、その定義を示さずにこれらの言葉を用いているものが少なくない。

そこで、本研究では量的調査により「福祉マインド」とは何か、そして、福祉系大学の卒業生が身につけている「福祉マインド」の構造を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

谷川による研究（2007）および日本学術会議（2015）が示した社会福祉学に固有の、社会福祉学分野の学びを通じて獲得すべき6つの基本的能力（①個人の尊厳を重視し支援する能力、②生活問題を発見し、普遍化する能力、③社会資源を調整・開発する能力、④社会福祉の運営に貢献する能力、⑤権利を擁護する能力、⑥個人の力を高め社会を開発する能力）を参考に、42項目を考案した。

調査はA大学社会福祉学科の卒業生のうち、系統抽出法により名簿から抽出した3,000名の卒業生を対象に自記式調査票を郵送して実施した。調査期間は2018年11月から12月とした。

分析にはIBM SPSS Statistics 24を用いた。

3. 倫理的配慮

A大学社会福祉学科卒業生の名簿については、A大学同窓会社会福祉学科部会に事前に研究目的・意義を説明し、質問紙を提示した上で利用の承認を得た。

調査実施にあたっては調査対象者に、回答データは厳重に管理しすべて統計的に処理するため個人名は特定されないことや、研究成果を公表するが研究目的以外で使用しないこと、質問紙への回答・返送をもって本研究協力への同意とみなす旨を書面にて説明した。

なお本研究は、関西福祉科学大学研究倫理審査委員会の承認を得ており（18-17）、発表内容については共同研究者の承諾を得ている。

4. 研究結果

調査票の回収数および有効回答数は369通（回収率および有効回答率は12.7%）であった。本研究では、福祉マインドに関する42項目すべてに回答のあった362名を分析対象とした。

福祉マインドに関する42項目のうち天井効果の確認された4項目を除き因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行った。因子数は日本学術会議（2015）が6つの基本的能力を示したことを参考に6とした。プロマックス回転後の因子パターン行列から、1つの因子について因子負荷が0.40以上で、かつ2因子にまたがって0.40以上の負荷を示さない31項目を用いて因子の解釈を行った。

その結果、「さまざまな視点から他者を捉えようとしている」「基本的人権（人が人として当然持つ権利）を尊重している」等9項目からなる第1因子を「他者を尊重する姿勢」、「周囲の人と学び合って共によりよく生きようとしている」「周囲の人と助け合って共によりよく生きようとしている」等5項目からなる第2因子を「共生の意識」、「さまざまな問題を社会との関係で分析している」「生活問題を抱える人々のニーズを把握している」等7項目からなる第3因子を「課題の分析・解決能力」、「他者に尽くしている」「人に喜びを提供している」等5項目からなる第4因子を「共感する力」、「組織の運営に関する知識やスキルを高めている」「組織の運営に関心がある」等3項目からなる第5因子を「組織のマネジメント能力」、「環境と共生しようとしている」および「環境問題を心配している」の2項目からなる第6因子を「エコロジカル視点」と解釈した。また、各因子の α 係数は0.768から0.882までの値を示した。

5. 考察

「福祉マインド」に関して考案した項目について因子分析を行った結果、項目の考案および因子数決定を参考にした、日本学術会議（2015）が示したものと同様の内容もあるが、すべて一致したわけではなかった。特に、谷川（2007）同様、「エコロジカル視点」が独立した因子として抽出されたことは注目に値しよう。しかし、この因子は2項目しか関連しておらず、「福祉マインド」の下位尺度として扱うには不十分である。今後は「エコロジカル視点」に関する項目を追加し、尺度として成立するよう検討したい。

文献

- ・谷川和昭（2007）「福祉の心の構造化の試み」『メンタルヘルスの社会学』13、50 - 57
- ・日本学術会議 社会学委員会 社会福祉学分野の参照基準検討分科会（2015）「大学教育の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準 社会福祉学分野」

付記

本研究は、2018年度関西福祉科学大学「社会福祉の魅力発信プロジェクト事業」からの助成による研究成果の一部である。